

令和3年12月20日（月）
14時00分開会

事務局（石黒課長）

定刻になりましたので、始めさせていただきます。皆さまこんばんは。私は鎌倉市食育推進計画を所管しています市民健康課長の石黒でございます。本日は年の瀬のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。コロナの感染拡大が始まって約2年経ちまして、新しい生活様式が推進されておりますが、食育に関しましては、共食を目標に掲げて推進をしておりますので、厳しい2年間だったと思います。本来ですと、無作為抽出アンケートを実施して、計画改定を行う時期でしたが、この状況下で延期をいたしました。幸いにも今感染が落ち着いていますが、今月に入ってオミクロン株の感染者も出てきておりますので、本日はオンラインと対面を合わせたハイブリット式で開催させていただきます。接続の不具合などご不便もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席者は8名で、過半数を超えておりますので、本推進会議条例施行規則第3条第2項の規定により会議は成立しておりますことをご報告いたします。

推進会議の議事進行は、施行規則第2条第2項にありますように会長が行うこととなっておりますが、本日は新委員に変わって第1回目ですので、会長が選出されるまでの間、事務局で会議を進行させていただきますのでよろしくお願いいたします。

まず、委員の皆様の委嘱辞令でございます。本来ならば、お一人ずつお渡しをしてお願ひするところでございますが、大変略式ながら、本日は皆様に開催通知と一緒に送りをさせていただいております。ご了承ください。

なお、委嘱任期でございますが、令和3年3月2日から令和5年3月1日までの2年間の期間となります。どうぞよろしくお願いいたします。

また、今回の委員会に関して、事前に傍聴希望者の募集を行っていましたが、希望者はいなかったことを報告させていただきます。

続きまして、本日は皆様、初めてのお顔合わせになりますので、委員の皆様方に自己紹介をお願いしたいと思います。本会議は、「第3期鎌倉食育推進計画」の41ページでございます、条例第3条第2項で定めております各分野からご推薦をいただき組織しております。お手元にお配りいたしました委員名簿の順にご所属とお名前をお願いできればと思います。

それでは、安齊委員からお願いいたします。

安齊委員

JA さがみ農業協同組合の安齊です。よろしくお願いいたします。

及川委員

現在佐助カフェで働いておりまして、また、子ども食堂でボランティアをさせていただいております。地域の方と、地域に密着した食育のことを知っていたらと思い、参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

加藤委員

私は3年前に鎌倉市に家族で引っ越してきました。市内の糖尿病クリニックで管理栄養士として従事しております。食育は子供に向けて行うものと思っていたのですが、クリニックで妊娠糖尿病の患者様が増加しているということや、妊婦さんたちとお話する中で、環境を作る大人にこそ食育が必要だと感じました。自分が生活しているところでの食育の取組方をもっと知っていたらと思い、応募させていただきました。よろしくお願いいたします。

桜井委員

鎌倉保健福祉事務所で管理栄養士をしております、桜井です。よろしくお願いいたします。

富田委員

岩瀬保育園の主任保育士をしております、富田です。よろしくお願いいたします。

中村委員

神奈川県立保健福祉大学の学長をやっております、中村です。よろしくお願いいたします。

中谷委員

鎌倉女子大学の中谷です。よろしくお願いいたします。

牧田委員

地元で蒲鉾店を経営して、魚から製品を作っております。色々勉強させていただきながら一緒に食育をよりよくしていきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

事務局（石黒）

ありがとうございました。

次に、画面をご覧ください。市の関連課で構成されている、鎌倉市食育連絡協議会がごぞいます。本日の会議には出席しておりませんが、本会議開催前に協議会を開催し、庁内・小中学校との連携を図っております。

また、本日事務局の市民健康課職員が7名出席しております。
名簿を配付しておりますので、紹介は省略させていただきます。

次に、会長及び副会長の選出に入ります。

施行規則第2条第1項の規定により、委員の皆様の互選により選出することになっています。

どなたか会長、副会長の選出をお願いできますでしょうか。

事務局としましては、今までの経過もご存じで学識経験者である中村委員に会長を、副会長は同じく学識経験者である中谷委員をお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。

(異議なし)

事務局（石黒）

中村委員いかがでしょうか。

中村委員

承知いたしました。

事務局（石黒）

中谷委員いかがでしょうか。

中谷委員

承知いたしました。

事務局（石黒課長）

それでは、会長を中村委員に、副会長を中谷委員をお願いいたします。

会長が選出されましたので、この後の進行を中村会長をお願いいたしますと思います。よろしくをお願いいたします。

中村会長

ただいまご紹介に預かりました中村です。引き続き会長をさせていただきます。ご協力の程よろしくをお願いいたします。

ただ今より、令和3年度第1回鎌倉市食育推進会議を開会いたします。

ご存じのようにコロナが起こってSDGsの国際目標が17項目あるのですが、これらが定まって栄養や食事の世界が大きく変わりました。私も驚くべき変化

でありました。12月7日と8日に日本政府は東京栄養サミットを開催いたしました。オンライン開催でしたので、日本時間では夜の9時から12時までとなりまして、新聞各社がこのサミットをほとんど取り上げませんでした。しかしこのサミットは国際的に大きな影響力を持つサミットでありまして、そもそもはロンドンオリンピックのときに始まりまして、4年に1回オリンピックの年に、オリンピックに世界中のリーダーが集まるので、そこで栄養の議論をしようということで作られたサミットであります。

約30か国の首脳級及び閣僚級等の他、国際機関の長、民間企業、市民社会、学術界等の代表等、計50名以上が、栄養改善に向けた取組を述べまして、栄養や食事が大切だということ、そのために発展途上国には支援が必要だということなどのメッセージが発されました。岸田総理からは今後3年間で3,000億円、28億ドル以上の栄養に関する支援を行い、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成等に貢献していくことが表明されました。なぜこの時代に世界のリーダーが栄養のことを言うかということ、これまでは、栄養は今まで人々が健康になるための施策をやってきたのです。欠乏症が生じた時には欠乏症にならない施策を講じ、肥満が生じたときには食べすぎにならないように、栄養の科学をベースにして人々に指導してきました。それがコロナとSDGsを経験して、健康のためだけでは不十分だということが分かりました。健康な食事が地球環境にも優しくなければならない、人間が健康のために生きる食事が、地球に負荷を与えるようではこの地球は持たないということです。つまり健康にも地球にもいい、両方を満足させるような食事をこれから検討しなければいけないということです。このままいくと温暖化現象が起こり、気候変動が起こり、食料の生産が不十分になってきます。SDGsにすべての人々を差別なく、すべての人々が健康で幸せに生きる社会を作るといっていますが、すべての人というのは食料が不足したときに最初に打撃を受ける貧しい層を含むということです。社会的に地位の十分でない人、お金のない人、貧困、そういうところが取り残されてきて、お金や権力を持った人たちだけが生きられる社会を迎えることは許されない、誰をも取り残さずすべての人々が健康で幸せになるためにはこの地球環境をきちっとしないと食料が持たないので、環境問題が出てきたのです。今回のコロナにおいても、サミットにおいても、このままでは地球が危ないということが世界のリーダーから多く発言されました。

食育の中で考えていかなければいけないことは、ゴミを出さない、食べ物を無駄にしないなどといったフードロス問題、また環境に負荷をかけないという意味で、肥満にならないようにする、つまりは無駄に食べすぎないで、適切に食べるようにするということです。

これらを発信していかなければいけないかなと感じています。

議論に入ります前に、事務局から何か説明はありますか。

事務局

まず資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしております資料は

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 【資料 1】 コロナ禍における健康づくりに関するアンケート調査結果
- ・ 【資料 2】 令和 2 年度「第 3 期鎌倉食育推進計画」にかかる取組実績
令和 3 年度「第 3 期鎌倉食育推進計画」にかかる取り組み予定
「第 3 期鎌倉食育推進計画」

です。

足りないものはございませんでしょうか？

よろしくお願いいたします。

中村会長

では、議題に入らせていただきます。

次第に従い、議題（1）これまでの経緯について、事務局から説明をお願いします。

事務局

では、議題（1）これまでの経緯について説明をさせていただきます。

本会議は平成 24 年度から条例化されており、以降 2 年ごとに委員の改選を行いながら計画の推進をしてまいりました。

計画の 1 ページをご覧ください。

本計画は、国が策定している「第 3 次食育推進基本計画」の市町村食育推進計画として位置付けており、鎌倉市が策定している「第 3 次鎌倉市総合計画」を上位計画とし、鎌倉市健康づくり計画など他の個別計画と連携しながら取り組んでいます。

第 3 期鎌倉食育推進計画は当初平成 30 年度から 3 年間の計画としておりまして、平成 3 2 年度（令和 2 年度・西暦 2020 年度）に計画の評価を行なう予定でございましたが、新型コロナウイルス感染症の影響下でのアンケート実施は、平時とは状況が異なることから、結果の比較が難しいことが予想されるため、令和 2 年度第 1 回会議において、計画の評価のためのアンケートは実施しないこととし、改定は見送ることとし、計画期間を令和 7 年度まで延長いたしました。

次に 1 ページの下の図と 2 ページの計画期間をご覧ください。

平成 28 年度から健康増進法に基づく、鎌倉市健康づくり計画の推進も行っておりまして、本計画と重なる部分も多いことから、令和 7 年度の評価のためのアンケート実施を一体的に実施する予定です。

次に 2 ～ 1 1 ページのところですが、計画策定までの経緯を説明いたします。

計画を策定するにあたり、食育アンケートを実施しました。また平成 26 年度に実施した「鎌倉市健康づくりについての意識調査」の結果等を参考にしながら本計画をまとめました。

次に、17 ページには計画の体系をお示ししています。

4 つの取り組みの柱にそって、それぞれの基本施策や指標を設定しています。

次に、21～32 ページをご覧ください。

4 つの取り組みの柱に沿って、なるべく具体的に、一人ひとりができることや、みんなでできることの提案を行っています。

コラムも掲載しておりまして、食育の考え方や、知識、取り組みのヒントとなるような内容にしています。

次に、35 ページをご覧ください。

こちらには指標に対する目標値と現状値を記載しています。令和 7 年度にこの目標値に近づけることができるよう取り組みを行っております。

この会議では、主に計画の策定や見直し、推進のための取組み状況の確認や、委員さん同士での情報共有等を行っております。食育推進は、市での取組みもちろんですが、皆様が所属されている各団体や市民の皆さん一人ひとりの課題でもあり、それぞれで取り組んでいかなければなりません。この会議の中で、取組みの方向性を随時確認し共有すると共に、行政や団体がお互いに連携を図ることで、食育推進を取組みやすくしていきたいと考えています。

以上で説明を終わります。

中村会長

議題（1）これまでの経緯について、何かご意見はございますか。

加藤委員

21 ページからは特に、今日からでもすぐに使えるような具体的な方法が載っていてとてもわかりやすいと思いました。このページをそのまま利用してお話してもいいのかなとお伺いしたいです。25、26 ページのお雑煮のことなんか載っていて、日本で地域ごとに文化があって、お雑煮もいろんな種類があるなんてところからご興味を持ってもらって日本食の良さとかの話につなげていただければいいなと思いつつ拝見していました。

事務局

ホームページにも掲載していますので、ぜひ利用をお願いします。

牧田委員

とてもわかりやすくまとまった資料だと思うのですが、この冊子はこういったところで配布されているのでしょうか

事務局

策定時、保育園・幼稚園・学校・関係団体等に配布をいたしました。また、現在も健康教育や健康の出張イベントなどで配布をしております。在庫はありますので、委員さんにも引き続き配布にご協力いただけますとこちらとしてもありがたいです。

中村会長

中谷先生ご意見ありますか。

中谷副会長

大学の学校祭で、鎌倉市の方のブースがあり、乳がんの啓発などをして下さっているのですが、そういったところでも配布していただけると、若い人たちにも届くと思います。よろしくお願いします。

加藤委員

クリニックで配布ができます。

牧田委員

商工会議所でも事業者の方向けの講習会などありますので、配布ができます。

事務局

ありがとうございます。では後日送付をさせていただきます。

中村会長

では、議題（２）新型コロナウイルス感染症の影響下における健康づくりに関するアンケート結果について

事務局から説明をお願いします。

事務局

資料1をご覧ください。

令和2年度の健康づくり計画を推進委員会において、コロナ禍における健康づくりに関する現状を把握するためのアンケートをとってはどうかとの意見をいただき、3月15日からインターネット上でのアンケートを実施いたしました。市ラインやツイッターでの通知で協力を依頼し、219名から回答をいただきました。結果をまとめたものが資料1になります。食に関する部分もありますので、共有をさせていただきます。

回答いただいた 219 名のうち 1 名は 10 歳代だったため、性別、年代にのみ計上しており、問 3 以降の青年期、壮年期、高年期に分けた集計には計上しておりません。また、青年期は 26 人と他年代に比べて人数が少なくなっております。また、H26 年度は無作為抽出で行っており、実施方法、実施人数が異なりますので、単純比較はできませんが、参考までに、下に平成 26 年度のグラフを掲載しているものもございます。

問 3 から食に関わる部分についてご説明させていただきます。

問 3、最近の健康状態はいかがですかに対して、青年期はあまり健康でないが 19%、健康でないが 4%でした。壮年期は健康であるが 34%、まあ健康であるが 59%でした。高年期は健康であるが 43%、まあ健康であるが 47%でした。

問 6、献立に主食・主菜・副菜がそろっていますかに対して、青年期は毎食そろっているが 12%、1 日 2 食はそろっているが 27%でした。壮年期は毎食そろっているが 21%、1 日 2 食はそろっているが 43%でした。高年期は毎食そろっているが 53%、1 日 2 食はそろっているが 33%でした。

問 7、食事の内容や食べる時間、回数等、食生活に対する意識がコロナ禍以前と比べて変わりましたかに対して、青年期は気を付けるようになったが 46%、食生活が乱れてきたが 8%でした。壮年期は気を付けるようになったが 20%、食生活が乱れてきたが 9%でした。高年期は気を付けるようになったが 23%、食生活が乱れてきたが 4%でした。

問 14、コロナ禍の今、健康づくりのために取り組んでいること等がありましたらご記入くださいに対しては、一番多く記載があったのは運動に関すること、次いで食事に関することとなりました。具体的には、しっかり食べること、食事や運動に気を付けている、時間があるので発酵食品などは手作り、日ごろと変わらない食事の摂取、外食は控える、サプリメントの摂取、食生活のバランスが崩れないようにしている、青汁を飲むなどがありました。

全体を通して、コロナ禍で健康づくりや食生活に影響はあるものの、日ごろの健康や食への意識や関心は高まっているという良い面も見られました。主食・主菜・副菜がそろっている人の割合は、青年期は特に少ない結果となりましたが、コロナ禍以前と比べると気を付けるようになったと答えた人が多くなりました。

食育の中で「共食」で楽しく食べる、みんなで食卓を囲むなどは、家族以外とはなかなかできない状況が続いていて、まだ少し我慢の時期かなと考えております。今はおうちでの共食やおうちでの食事の回数が増えているからこそそのバランスや選び方といった情報発信などを進めていきたいと考えています。

中村会長

何かご意見、ご質問はございますか。

(意見なし)

中村会長

厚生労働省でも同じような報告をしていたと思います。結果を比較したりしていますか。

事務局

していません。

中村会長

一度比較してみるのもよいと思います。

では、議題（3）令和2年度実績報告及び令和3年度取り組み予定についての説明をお願いいたします。

事務局（浦山）

【資料2】をご覧ください。資料2（R2）が昨年度の実績、資料2（R3）と書かれたものが今年度の取り組み予定になります。

こちらにまとめている事業は、市の関連課で行っている食育推進に関する取り組み事業の一覧でして、具体的にどのような事業を行っているのかイメージいただけるかと思います。

資料2（R2）の昨年度の実績の、達成状況についてですが、事業目的・実施回数・参加人数・効果等を考慮し、該当するものを次の1～4から選んでいます。

達成状況の目安は次のとおりとしています。

1. よくできた …(例)当初予定の80%以上できた
2. だいたいできた …(例)当初予定の50～79%できた
3. あまりできなかった …(例)当初予定の30～49%しかできなかった
4. できなかった …(例)当初予定の29%以下しかできなかった

できる限り客観的な評価ができるように、達成状況の左列の達成状況の根拠を記載し、各課の担当者間での評価の基準が異ならないように、関係課長が一堂に会して、全体を通して確認を行いました。

全体を通してみますと、対面でのイベントや啓発ものは令和2年度は中止となっているものが多くみられます。実施方法を変更したりなど工夫をして実施したケースも見られました。令和3年度ではオンラインに切り替えての実施や、少人数制にしての実施予定などもあがってきております。

いくつか事業の詳細内容についてご紹介をさせていただきます。

・(R2-12、R3-12) 健診での啓発についてです。

コロナ対策で、フードモデルの展示などを中止していますが、待ち時間に困ることがないかの声かけや、リーフレットの配布などを行っています。3歳児健診では、令和3年度から新たにリーフレット配布を追加しており、3歳児の食事のポイントや野菜のレシピなどを掲載しています。

・(R2-14、R3-14) 離乳食教室についてです。

令和2年度からはひと月あたりの参加組数を減らし、内容も一部変更し、試食はなしとし、形態の確認は、手で触るのみとして実施をしています。参加人数を減らしている関係で、月によっては希望する人が参加できないこともあり、課題となっていました。現在は会場を変更するなどして、参加人数を少し増やし、希望する方が参加できる体制を目指しています。参加できない場合は引き続き、電話での相談等を行っています。加えて、自宅でも確認ができるように動画配信も行っています。

・(R2-19、R3-20) 食育カレッジについてです。

令和3年度はコロナの影響により啓発やイベントの予算確保ができませんでしたので、予算なしでできるものを実施予定です。啓発事業が少なくなっている中で、優先度の高いところに焦点を当て、子育て期などに向けた事業を実施予定です。先日、安齋委員にご協力をいただきまして、畑の様子を撮らせていただき、幼児向けの野菜の講座を行いました。ほうれん草が大きくなる様子や、葉っぱ付きの人参、土に植わっているカブの写真などを子どもたちに見てもらいました。根っこがついているほうれん草などいくつか野菜をご寄付いただき、当日実際に子供たちに見せてあげました。

・(R2-20、R3-20) 情報発信についてです。

コロナ禍において、健康意識が高まっていることを踏まえ、免疫力アップの情報発信などを行う予定です。こちらホームページに載せているものをいかに多くの人に見ていただくかが課題と考えていますので、SNSなど活用して随時周知をしていく予定です。

・小中学校での現状について食育連絡協議会で共有したことをご紹介します。

小学校では、本来であれば給食を通して楽しい会食を行うところですが、コロナ禍でできていません。給食は前を向いて会話をせずに食べることにしています。ランチルームの利用も中止となっています。バランスのよい食事や食育については、給食部会の中で、できる範囲で進めています。現在は教室で見られる映像を作成していて、ランチルームでの食指導でその映像を使用する予定です。

中学校でも、前を向いて黙食が基本となっています。アクリル板を1人1人につけている学校もあります。また、部活動の昼食時なども、感染対策について指導しながら進めているところではあります。

なかなかこれまでのような取り組みができなかったり、というところはありませんが、できる方法を模索しながら、コロナ禍だからこそできることや、インターネットを上手に利用しながら、推進をしていきたいと考えています。

以上で説明を終わります。

中村会長

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

(質疑・応答)

加藤委員

課題として思っていたことがたくさん解決されまして、情報収集ができていなかったと反省するとともに、今ご案内いただいたことをより多くの方にご案内していきたいと思いました。私たちはつい野菜を食べたほうがいいといってしまうのですが、野菜の食べ方がわからない若い方が多くて、捨ててしまう方も多いと思います。野菜の食べ方をご案内する資料もこの鎌倉市のホームページから拝見することができるのでしょうか。

事務局

3歳児健診の対象者全員にお配りしていただきましたので、ホームページには掲載しておりませんでした。より多くの方にとということで、今後掲載していきたいと思えます。

加藤委員

市のホームページを見ると、たくさんの情報が出てきたので、そのリンクを計画と一緒にお渡ししたいなと思いました。YouTubeの公式ページがあることも知らなかったもので、これから検索してみたいと思えます。ありがとうございました。

中村会長

コロナ禍において一番議論されたことをお伝えします。コロナ禍でスーパーは開いていたのですが、食事が偏ることによって免疫機能が低下して、感染症にかかりやすくなるのではという議論があって、一方ではこれを機にビジネスを考える食品メーカーなどがありまして、この食品を摂ると免疫力が高まるのか、そういったものが出ています。私は日本栄養士会の会長もやっていますが、世界で最初に、免疫を高める特別な食事はないというメッセージを出しました。免疫には、自然免疫と獲得免疫があるのですが、今回のコロナのようなものは獲得免疫の免疫システムです。

獲得免疫は、抗原に1回感染して、抗体ができて、2回目には同じウイルスには感染しないようにします。毒性を持っていない物質を体内に入れることで、

病気にならないで抗体だけ作ろうというのがワクチンなのですが、本来であれば10年くらいかかるところを1年くらいで作りました。驚異的に早かったです。それは研究論文を投稿するジャーナルをオープンにしたからです。その結果1年間で何万という論文が出てきて、急速なスピードでワクチン開発が進みました。ワクチンを打って、抗体ができて、抵抗力を体につけるには、いくつかのプロセスがあります。そのプロセスの中で補酵素というものが働くのですが、補酵素は20種類くらいあるのです。栄養素は全部で30種類くらいあるのですが、その中の20種類の栄養素がこの免疫反応を起こす化学反応に関与しているということがわかっています。結局どのような食事が一番確実に免疫機能を高めるかという、その免疫反応に関わっている20種類の栄養素をすべて満遍なくとることができる健康的な食事、栄養バランスのとれた食事をとることが最も抵抗力をつける食事だということを今世界の研究者は考えています。

だから普通の健康食がその以上な事態が生じて、パンデミックな状態が生じてもバランスの取れた通常の健康な食事を展開できるというのがコロナに打ち勝つコツです。今回のアンケートでも調べると、主食・主菜・副菜がそろっていない人も多くいましたので、特に野菜とたんぱく質の摂取量の不足がないように、普通の食事をとれるようなコロナ対策というのが良いのではないかなと思っています。ここまでが発症予防についての話です。次の段階として、罹患した人が重症化したり、亡くなられたりという問題があります。重症化を引き起こす要因となるのが肥満です。欧米と比較して、重症化が少ない要因として、日本人は肥満が少ないからです。むやみに体重は増やさない、果物や野菜はしっかり食べる、このあたりはポイントになると思います。

では、委員の皆さんから取り組んでおられることなど、まだお話されていない方からお聞かせいただけますか。富田委員いかがでしょうか。

富田委員

コロナ禍になって、子供たちと一緒に食事をとることができなくなってしまったのですね。一緒に食べておいしいねというのができなくなってしまったということが、残念なことだなと感じています。

市の離乳食動画について、市から情報提供いただきまして、対象の保護者向けにお知らせをしております。

中村会長

そうですね。中谷副会長はいかがでしょう。

中谷副会長

大学でも、食堂では横並びで、会話をせずに食事をする事になっています。以前は比較的学内では自由に学内どこでも飲食ができたのですが、今は教室の中は飲食禁止となっていて、食堂で食べる事になっています。食育の中では

共食はとても大事といわれていますが、やはりこの状況ですので、そこが逆行していて残念だなと感じています。ゼミナールでJAさがみさんと連携させていただいているのですが、おうちごはんが多くなったことで、直売所に来られるお客様は増えたそうです。一時は入場規制をしても開店と同時に密集していた状況だったようですが、ワクチン接種が進んで、規制が緩和されたことで、休日に直売所に買い出しにくるよりも、外に遊びに行かれる方が増えた印象で、ピーク時よりかはお客様の数が減ってきているということでした。

中村会長

ありがとうございます。牧田委員お願いします。

牧田委員

コロナ禍で、地域の中での工場見学や、総合学習での職場訪問などが少なくなっていますのが残念だと感じています。朝市のようなイベントも一時期よりかは戻ってきているところもありますが、まだ再開できていないものも多く、横のつながりや、市民の皆さんが直に地産地消を感じられなくなっているのではということが残念だと感じています。一方で、家庭の中での食事が少し見直されたのかなというようにという感じもします。外食系の部分ですと、惣菜持ち帰りセットのようなものに関しては確実に需要が増えてきているように感じます。今は家庭の中で共食を分かち合うということ、また落ち着いたら地域の皆さんや学校の中では先生方やお友達と一緒に語り合いながら食べられるなど、つながりが増えていくといいなと感じています。来年に希望をつなぎたいと思います。

中村会長

ありがとうございます。

では、議題（4）その他について 事務局からお願いします。

事務局

今後のスケジュールについて説明いたします。次回の委員会は3月24日(木)18:00～です。基本はオンライン開催といたしますが、オンライン参加ができない場合にご来場いただく会場については現在調整中ですので、また改めてお知らせをさせていただきます。今回と同様に開催前に、開催通知や資料等お送りさせていただきますので、ご確認をよろしく願いいたします。

中村会長

他に委員の皆さんから何かありませんか。

これで令和3年度第1回鎌倉市食育推進会議を閉会します。